

平成 24 年 11 月 16 日

平成 24 年度病害虫発生予察特殊報（第 1 号）

和歌山県農作物病害虫防除所

TEL 0736-64-2300

1. 病害虫名 トルコギキョウ葉巻病

2. 作物名 トルコギキョウ

3. 病原名 トマト黄化葉巻ウイルス (*Tomato yellow leaf curl virus* ; TYLCV)

4. 発生地域 東牟婁郡串本町

5. 発生確認の経過

1) 平成24年9月に東牟婁郡串本町の施設栽培トルコギキョウで節間が萎縮して葉が小形化し、著しく生育が抑制される症状が発生した。症状からウイルス性病害が疑われたため、大阪府立大学生命環境科学研究科に診断を依頼したところ、PCR法によって罹病個体からTYLCVに特異的なDNAの増殖が認められ、塩基配列もTYLCVのものであると確認された。これらのことから、TYLCVによるトルコギキョウ葉巻病であることを確認した。

2) 本病は平成11年に国内で初めて長崎県において発生が確認され、平成24年10月現在、16県から特殊報が発表されている。なお、本県では同じ病原ウイルスによるトマト黄化葉巻病の初発生を平成16年に確認しており（平成16年度病害虫発生予察特殊報第1号）、その後もトマト、ミニトマトで発生が継続している。

6. 病徴および病原ウイルスの性質

発病株は節間が短縮して葉が小型化し、葉脈が隆起、葉表を内側にして巻く（写真）。病原ウイルスのTYLCVはタバココナジラミによって媒介される。タバココナジラミは、成虫および幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスの伝搬能力を獲得する。タバココナジラミによる伝搬は永続的に行われるが経卵伝染はしない。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしない。

7. 防除対策

1) TYLCVは栽培作物ではトルコギキョウのほか、トマト、ミニトマト等で自然感染が認められている。これらの感染株は伝染源となるため、見つけしだい抜き取って適切に処分

する。また、TYLCV はエノキグサ、ハコベ等の周辺雑草にも自然感染することから、ハウス内やハウス周辺の除草を徹底する。

2) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。施設の天窗や側窓、入り口など開口部に目合い 0.4mm の防虫ネットを被覆して侵入を防止する。

3) 施設栽培では、作付け終了後、施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、拡散防止につとめる。



写真 生長点付近の葉巻症状および葉脈の隆起